

平成22年海面漁業・養殖業生産統計(概数) (鹿児島県)

—— 平成22年の海面漁業・養殖業生産量は前年に比べ5.3%増加 ——

【調査結果の概要】

平成22年の鹿児島県における海面漁業・養殖業の生産量は13万6,258 tで、前年に比べ6,845 t (5.3%)増加しました。

- 1 海面漁業の漁獲量は8万6,796 tで、かつお類、まぐろ類、さば類及びいわし類等が増加したことから、前年に比べ1万3,787 t (18.9%)増加しました。
- 2 海面養殖業の収穫量は4万9,462 tで、ぶり類等が減少したことから、前年に比べ6,942 t (12.3%)減少しました。

図1 海面漁業・養殖業生産量の推移

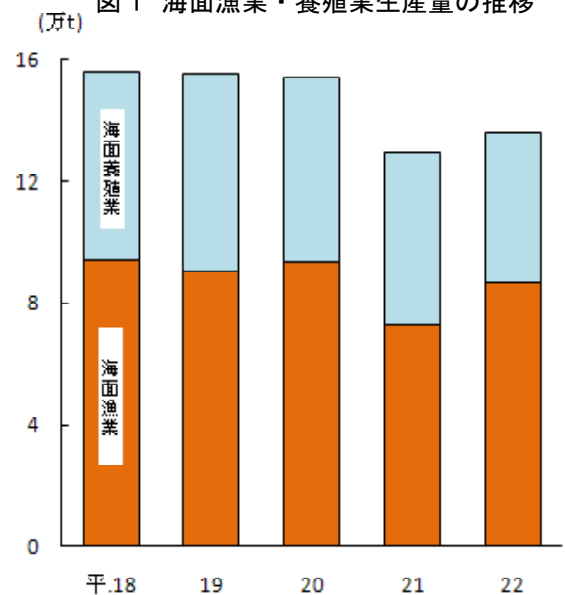


表 海面漁業・養殖業生産量

区分	平.22	21	対前年差	対前年増減率
	t	t	t	%
海面漁業・養殖業計	136 258	129 413	6 845	5.3
海面漁業	86 796	73 009	13 787	18.9
海面養殖業	49 462	56 404	△ 6 942	△ 12.3

◎調査結果の利活用

「水産基本計画」における水産物の自給率目標及び持続的生産目標の策定等の資料等。

【解説】

1 海面漁業

(1) 主要漁業種類別漁獲量

ア 中・小型まき網の漁獲量は2万5,568 tで、前年に比べ1,801 t (7.6%)増加しました。

これは、さば類及びいわし類等が増加したためです。

この資料は、九州農政局ホームページ鹿児島農政事務所サイトの「統計情報(鹿児島県)」でもご覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/>】

- イ 釣の漁獲量は3万6,889 tで、前年に比べ5,837(18.8%)増加しました。
これは、主としてまぐろ類、かつお類及びさめ類等が増加したためです。
- ウ 船びき網の漁獲量は6,495 tで、前年に比べ1,056 t(19.4%)増加しました。
これは、主としていわし類及びその他の魚類が増加したためです。
- エ 定置網の漁獲量は5,686 tで、前年に比べ552 t(10.8%)増加しました。
これは、主としていわし類等は減少したものの、その他の魚類、あじ類及びかつお類等が増加したためです。

(2) 主要魚種別漁獲量

- ア まぐろ類の漁獲量は1万6,127tで、前年に比べ4,251 t(35.8%)増加しました。
これは、主として遠洋かつお・まぐろまき網の操業が行われたこと及び遠洋まぐろはえ縄で増加したためです。
- イ いわし類の漁獲量は1万4,744 tで、前年に比べ2,458 t(20%)増加しました。
これは、定置網を除くほとんどの漁業種類で増加したためです。
- ウ さば類の漁獲量は1万1,787 tで、前年に比べ3,069 t(35.2%)増加しました。
これは、漁獲のあるほとんどの漁業種類で増加したためです。
- エ かつお類の漁獲量は1万826 tで、前年に比べ4,839 t(80.8%)増加しました。
これは、主として遠洋かつお・まぐろまき網の操業が行われたこと及び遠洋かつお一本釣で増加したためです。
- オ いか類の漁獲量は9,449 tで、前年並みとなりました。
- カ あじ類の漁獲量は6,858 tで、前年に比べ1,760 t(20.4%)減少しました。
これは、大型定置網等で増加したものの、中・小型まき網等で減少したためです。

図2 主要漁業種類別漁獲量の推移

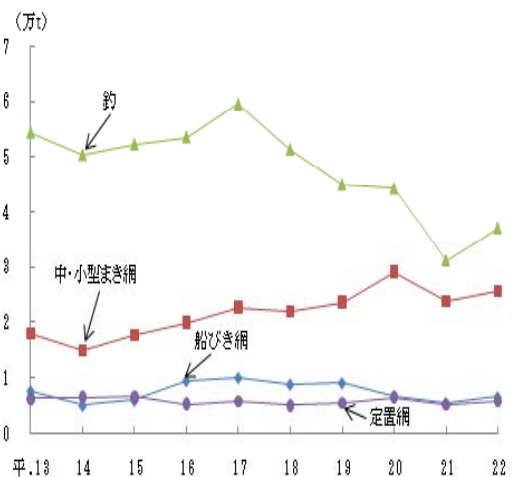
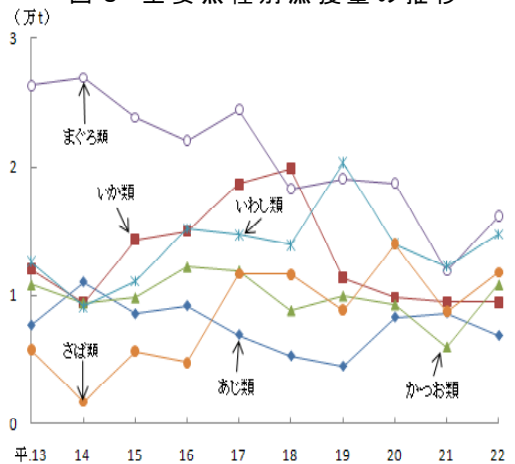


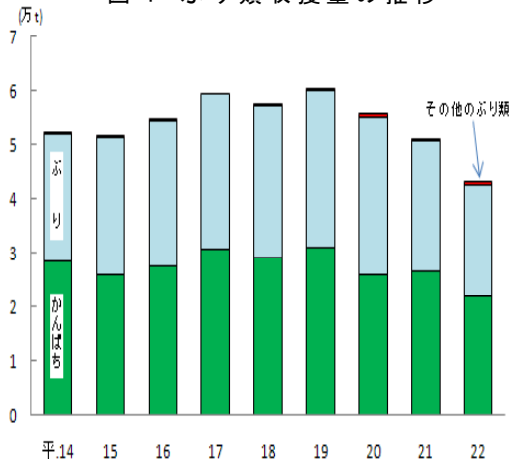
図3 主要魚種別漁獲量の推移



2 海面養殖業

- (1) ぶり類の収穫量は4万3,167 tで、前年に比べ7,833 t(15.4%)減少しました。
これは、赤潮による被害、他魚種への変更及び廃業があったこと等によります。
なお、全国に占める割合はかんぱちを除くぶり類で21.5%、かんぱちで53.8%となっています。
- (2) のり類の収穫量は812 tで、前年に比べ80t(10.9%)増加しました。
これは、波浪や強風による被害が少なかったためです。

図4 ぶり類収穫量の推移



【統計表】

1 海面漁業主要漁業種類別漁獲量

区 分	平. 22	21	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
計	86 796	73 009	13 787	118.9	100.0
小型底びき網	616	661	△ 45	93.2	0.7
船びき網	6 495	5 439	1 056	119.4	7.5
中・小型まき網	25 568	23 767	1 801	107.6	29.5
刺網	2 312	2 678	△ 366	86.3	2.7
定置網	5 686	5 134	552	110.8	6.6
その他の網漁業	3 462	2 849	613	121.5	4.0
釣(はえ縄等を含む)	36 889	31 052	5 837	118.8	42.5
上記以外の漁業	5 768	1 429	4 339	403.6	6.5

2 海面漁業主要魚種別漁獲量

区 分	平. 22	21	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
計	86 796	73 009	13 787	118.9	100.0
まぐろ類	16 127	11 876	4 251	135.8	18.6
かつお類	10 826	5 987	4 839	180.8	12.5
いわし類	14 744	12 286	2 458	120.0	17.0
あじ類	6 858	8 618	△ 1 760	79.6	7.9
さば類	11 787	8 718	3 069	135.2	13.6
いか類	9 449	9 510	△ 61	99.4	10.9
上記以外の魚種	17 005	16 014	991	106.2	19.5

3 海面養殖業主要魚種別収獲量

区 分	平. 22	21	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
計	49 462	56 404	△ 6 942	87.7	100.0
ぶり類	43 167	51 000	△ 7 833	84.6	87.3
うち、かんぱち	21 935	26 547	△ 4 612	82.6	44.3
まだい	761	798	△ 37	95.4	1.5
ひらめ	662	714	△ 52	92.7	1.3
くるまえび	452	468	△ 16	96.6	0.9
のり類(生重量)	812	732	80	110.9	1.6
上記以外の魚種	3 609	2 691	918	134.1	7.4

【統計表の見方等】

- 1 統計数値については、単位未満を四捨五入したため、計と内訳は一致しない場合があります。
- 2 表中に用いた記号は以下のとおりです。
「△」・・・負数又は減少したもの

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、海面の漁業・養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の基礎資料を整備することを目的としています。

2 調査の対象

本調査は、鹿児島県内の水揚機関、海面漁業・養殖業経営体を調査対象としています。

3 調査期間

平成22年1月1日から12月31日までを調査期間としています。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、陸揚げ等のために港に入港した日の属する年に含めて調査を行っています。

4 調査方法

調査員が水揚機関又は海面漁業経営体に調査票を配付し、自計申告する方法、又は調査員による面接聞き取りの方法等によって行います。

5 用語の説明

- 海面漁業とは、海面において利潤又は生活の資を得るために、生産物を採捕することを目的として行う漁業生産の行為をいいます。
- 海面養殖業とは、海面又は海面以外の場所に設けられた施設において、海水を使用して、水産動植物を集約的に育成し、収穫する事業をいいます。

注：この資料の数値は概数であり、確定値については、平成24年3月刊行予定の『第58次鹿児島農林水産統計年報』に掲載します。

【関連リンク】

水産施策関連ページ

<http://www.jfa.maff.go.jp/>

農林水産省公表の水産関係統計調査結果

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html>

分野別分類データは「水産業」に分類しています。

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
生産流通消費統計課 主任農政調査官

TEL：(直通) 099-222-7548

FAX：099-224-1501

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
統計企画課 企画・分析係

TEL：(直通) 099-222-7523

FAX：099-224-1501